

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4078400100
法人名	社会福祉法人 多聞福祉会
事業所名	彌栄苑グループホーム
所在地	福岡県八女郡広川町大字新代1432-1 (電話) 0943-32-5630

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成20年4月24日	評価確定日	平成20年5月21日

【情報提供票より】 (平成20年4月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 3.4人

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り
	2階建ての ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(10,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年4月3日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.4 歳	最低	80 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉山整形外科
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、自然が豊かなやや小高い場所にあり法人が運営する福祉施設の中央部2階に併設されている。苑内は広く朝・夕の散歩やそぞろ歩きなど、心身機能の維持回復に適した環境である。外出の機会を多くし、四季折々の花見や外食、ドライブなどを楽しみ利用者や家族の喜びになっている。運営者・全職員はその人らしい尊厳のある開放的な日々を支援し、利用者一人ひとりの表情からは、日常生活の安心・安定の明るさと和みがかうかえる。社会福祉への更なる貢献を目指しており、ケアの質の向上が期待出来る事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題については、全職員で話し合って改善シートを作成し「同業者との交流を通じた向上」等、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員は評価の意義を理解している。自己評価は、管理者及び計画作成担当者が全職員の意見を聴取して集約し、取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に開催し、利用者の日々の暮らしぶりや外部評価の結果報告等、事業所の状況報告をしている。委員からの意見を聴取し、外部との積極的な情報交換や地域の高齢者等への支援を検討する等、サービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	3ヶ月毎に事業所便りを発行し、家族面会時に手渡したり郵送し、暮らしぶりや健康状態を報告している。緊急時は電話連絡している。手紙や写真は2ヶ月に1度渡している。金銭管理については、領収書を家族に渡している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町会、自治会に加入し、事業所便りを地域に回覧している。月2回、近隣の保育園児との交流や地域行事の草取りや夏祭りに参加する等している。また、介護福祉士実習生や高校生のボランティアを受入れている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【1 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念をつくりあげ、利用者のケアに努めているが、地域密着型サービスの視点が加わっていない。	○	全職員で協議等を行い、これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝礼やミーティング時に理念を確認し、言葉かけ、態度、記録等、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会、自治会に加入し、事業所便りを地域に回覧している。月2回、近隣の保育園児との交流や地域行事の草取りや夏祭りに参加する等している。また、介護福祉士実習生や高校生のボランティアを受入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は評価の意義を理解している。自己評価は、管理者及び計画作成担当者が全職員の意見を聴取して集約し、取り組んでいる。前回評価での主な改善課題については、全職員で話し合って改善シートを作成し「同業者との交流を通じた向上」等、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、利用者の日々の暮らしぶりや外部評価の結果報告等、事業所の状況報告をしている。委員からの意見を聴取し、外部との積極的な情報交換や地域の高齢者等への支援を検討する等、サービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所便りを持参し事業所の近況を報告している。また、入居紹介等の相談をするなど、行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度については利用者、家族に利用開始時や相談時に説明している。全職員は内・外部の研修を受け、何時でも活用できるよう周知している。テキスト、研修記録、報告書が確認できた。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>3ヶ月毎に事業所便りを発行し、家族面会時に手渡したり郵送し、暮らしぶりや健康状態を報告している。緊急時は電話連絡している。手紙や写真は2ヶ月に1度渡している。金銭管理については、領収書を家族に渡している。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を定期的で開催し、意見箱を設置しており、駐車場の改善等の意見を運営に反映させている。第三者苦情・相談窓口は玄関に掲示し、利用開始時や折に触れ説明している。</p>		
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>勤務時間や休日の取得に配慮し希望に沿うよう勤務表を作成し、異動や離職を最小限に抑えている。引継ぎ期間を十分に取利用利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>募集や採用では、性別や年齢などを理由に排除しない。配置、昇進、研修、定年、退職等においても差別はない。管理者は、誰もが安心して生き生きと勤務し自己実現出来る職場環境を目指している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>全職員は人権に関する内・外部の研修に参加している。また週1回内部研修を実施している。テキスト、研修記録、報告書が確認され啓発活動にも取り組んでいる。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は日常的に学ぶ事を推進し出来る範囲で研修の機会を設けている。段階に応じた育成を考慮し、働きながらの介護福祉士資格取得への支援を行う等している。平等に研修が受けられるよう計画を立て行う等の配慮をしている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>八女広域連合ネットワークに加入し同業者と交流して勉強会を行なっている。管理者、職員は近くの事業所と月1回ぐらいの割合で交流し、相談や勉強会を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族は利用開始前に見学し、お茶を飲み馴染んでから利用してもらっている。職員は自宅及び病院訪問を行っている。やむを得ず即利用の場合は、不安の解消に努め声かけを多くし、家族の協力を得てしばらく一緒に居てもらおう等工夫し、利用者に安心して貰うよう努めている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	朝の体操を一緒に行った後、昔話を聴きながら一緒に話し、共感している。諺や漢字、生活の知恵、料理、掃除、花作り等を教えて貰ったり、夜勤の巡回時には労って声をかけて貰うなど、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で利用者に声かけし、行動や表情からも思いや意向を汲み取るようにしている。意思疎通の困難な利用者には家族や関係者から情報を貰い本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用開始時や家族の面会時に本人、家族の意向、要望を聴き職員の気付きや意見・アイデアを反映しながら、一人ひとりのその時点に沿う具体的な介護計画を作成している。本人・家族から了承のサイン・押印を貰っている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月・6ヶ月の期間に応じて見直しを行なっている。また事業所独自の「処遇日誌」で利用者の状態変化を直ぐ察知し随時の見直しを行っている。現状に即した新たな計画を作成し、家族に電話連絡をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体病院が敷地内にあり医療連携の24時間体制がとられ、他医療機関への送迎も職員が付き添って行っている。入院時には家族・医療機関と話し合い、見舞いに行き早期退院に向け連携するなど、必要に応じて個別に柔軟に支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については本人・家族と話し合い意向を確認し尊重している。事業所協力医や他の医療機関とも関係を築きながら本人・家族が納得した医療を受けられるよう支援し、受診時の通院介助の方法、情報の伝達方法についても話し合い合意を得ている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の気持を尊重し大切にしながら家族と話し合い、本人が安心して終末期を過ごせるよう随時意思を確認しながら取り組んでいる。医師・全職員は、チームで連携し支援していく事の大切さを関係者全員で話し合い方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	内・外部の研修やミーティングなどで職員の意識向上を図り、言葉かけ、排泄誘導、場面場面の対応時に実践しプライバシーを確保をするよう心掛けている。個人情報の記録にも注意している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時にしたい事を把握し利用者のペースを大切に、希望に沿った個別性のある支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みを取り入れ職員が計画している。下準備は利用者も共にし、同じものを同じテーブルで食べ介助をさり気なく行っている。会話が弾み、楽しい雰囲気作りが行われている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>体調がよければ、ほぼ毎日希望の時間帯にゆっくり入浴を楽しめるよう柔軟に対応している。現在入浴拒否の人はいない。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>職員は利用者のできそうな事を把握し、食事の下準備・花植え・草取り・習字・塗り絵・漢字・カラオケなど一人ひとりの生活歴を活かした役割・楽しみごとの支援をしている。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>日常的に戸外へ出かけ、毎日散歩を行っている。外食・買い物・ドライブにも出かけ、ドライブは月3回程行っており希望に沿った外出の支援をしている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>2階事業所からは廊下通路を日常的に使用しているため、そこを通過して別棟のリフト・エレベーターで苑外に自由に出入りできる。1階玄関は建物の構造上ほとんど使用していないため施錠し、家族の同意を得ている。外出傾向のある場合は、見守り連携や、一緒に付き添い歩きをし気分転換を図っている。職員は施錠の弊害を理解している。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力を得て避難訓練を年3回実施し夜間想定訓練も行っている。職員はマニュアルを周知し、救急対応の研修も行っている。地域住民へ地区長を通し参加を呼びかけている。非常食や備品は十分準備している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好調査をし、メニューに取り入れ職員が献立を作成し、栄養バランス・カロリー・色彩・食べる量に配慮し残菜はない。月1回管理栄養士にチェックして貰いアドバイスを受け、個別の食事は記録しているが、水分摂取量の記録がない。	○	排尿回数・体重測定記録はあるが水分摂取量の記録がないので、記録に残してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のソファで利用者同士が会話を楽しみ、大ぶりの人形が飾られ季節感と家庭的な雰囲気を醸し出している。採光・室温・音量も良く、さり気ない花などを飾り共用空間を居心地よく工夫している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼット・洗面台設置の居室のドアには、利用者手作りの鯉のぼりをあしらひ、個別感がある。馴染んだソファ・椅子・ベッド・テレビ・縫いぐるみ・家族写真など思い思いの品が持ち込まれており、本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。		

※ は、重点項目。